

審査の結果の要旨

氏名 金 慧卿

近年、経済成長の続く中国では急速な都市化が進行しており、都市と農村の格差の拡大が大きな社会問題となっている。背景として、都市と農村の二元構造、すなわち、二元戸籍制度、都市偏向の二元発展戦略、都市農村計画における二元管理制度があり、都市農村間格差にとどまらず、都市農村境界領域における拡張的都市開発、環境悪化などが問題となっている。一方で、都市と農村の一体的な整備をめざす城郷計画制度が2008年に施行され、従来の都市・農村二元計画管理制度の改革、都市と農村の一体的管理の試みが開始されている。

このような背景のもとで、本研究の目的は、以下のとおりである。

- ① 中国における都市と農村の関係を背景とする都市計画制度の変容の実態を解明する。
- ② 都市・農村融合の観点から、中国の都市化過程を踏まえたうえで、都市・農村一体化政策と城郷計画制度の役割と課題について評価する。
- ③ 都市・農村一体化政策の重要な施策となっている新農村建設の具体的な実施事例の評価を通じて、有効な都市・農村一体化政策と都市農村計画制度のあり方について提言を行う。

従来の研究において、中国の都市・農村一体化政策について空間政策の観点から評価を試みた研究は類例がなく、その点に本研究の学術的新規性がある。さらに、具体的政策事例の評価を通じて、都市・農村一体化政策の課題と今後の指針についての研究も類例がなく、政策的観点からもきわめて有益な実践的研究である。

以上の目的のもとで、本研究の構成は下記のとおりである。

研究の背景・目的ならびに既往研究レビューから構成される第1章に続いて、第2章では、中国の都市化過程における都市・農村関係の変容について、既往の文献と独自の統計分析に基づく分析を行った。第3章では、行政文書の分析ならびに行政担当者へのヒアリングにより、中国における都市・農村一体化政策の展開過程と都市農村計画制度の変容と城郷計画制度の意義について詳述している。第4章では、天津、成都市、浙江省における事例研究を行い、行政文書、計画文書の分析、行政担当者へのヒアリングを通じて、省レベルでの政策の実態に関する分析をおこなっている。第5章では、天津市における新農村建設事業の評価を、独自の住民アンケート調査によりおこなった。第6章では、研究全体の結論と提言を論述している。

研究の主要な結論は以下のとおりである。

- ① 都市・農村格差要因分析の結果、農村における固定資産投資構造の改善が所得格差改善

に効果をもつことが判明した。

- ② 一方で、新しい城郷計画制度においても、市レベルの法定計画として都市と農村を包括するマスタープランが制度的に位置づけられておらず、この点が現行の都市農村計画制度の課題となることが示された。
- ③ 省レベルにおいては、多様なかたちで都市農村一体化政策が運用されており、農民の移転を重視するか農村環境整備を重視するかで大きな違いがあることが判明した。
- ④ 独自に実施した住民アンケート調査の結果から、新農村建設による農民移転政策においては、住環境の改善効果は高いものの、雇用機会と農民の能力のミスマッチにより、所得向上は必ずしも単純には実現しないことが判明した。
- ⑤ 同様に、住民アンケート調査の結果から、都市近郊地域と遠郊地域においては、農村整備への期待は異なり、空間的な観点からのマスタープランの重要性が明らかとなった。

本研究は、上記のように、中国における都市農村一体化政策と城郷計画制度の有効性と課題について独自のデータに基づいて実証的に明らかにした先駆的研究であり、学術的に優れた価値を有していると同時に、きわめて有益な提言となっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。